

第2回ゼニガタアザラシ保護管理検討会の概要

1 日 時 平成24年6月16日（土）9：00～11：30

2 場 所 えりも町林業総合センター

3 委員会出席者（敬称略）

座長 羽山伸一 日本獣医生命科学大学獣医学科野生動物学教室教授

委員 小林万里 東京農業大学アクリオバイオ学科水産資源管理学研究室准教授

委員 桜井泰憲 北海道大学大学院水産科学研究院海洋生物資源環境部門資源生態學領域教授

委員 坪田敏男 北海道大学大学院獣医学研究科環境獣医学講座野生動物教室教授

委員 白鳥浩二 北海道環境生活部環境局自然環境課担当課長

委員 平野正男 えりも漁業協同組合組合長

委員 柳田勝彦 E R I M O ・ S E A L ・ C L U B 副会長（代理出席）

オブ 三好 誠 北海道水産林務部水産振興課主査

オブ 小見敏一 北海道漁業協同組合連合会環境部次長

4 概 要

今後2年かけて、えりも地域におけるゼニガタアザラシの保護管理計画を作成する準備として、被害の防除、個体数管理、モニタリング手法、管理体制の構築などを検討。第2回検討会では、主に以下の3つの議題について検討を行った。

（1）被害防除手法について

防除方法：音波による方法と網の改良について優先的に検討

①音波による方法：アザラシが慣れてしまうことを防ぎ、長期的に効果を持続させるため、音の異なる既存の忌避音波装置を複数組み合わせて検討。定置網だけでなくサケの遡上する河口での試行も検討する。

②網の改良：スリットと網自体の改良の検討。ただし、えりも地域の定置網の構造から、現時点ではスリットは難しいと考えられた。

実施時期：秋のサケの遡上の時期（9、10月頃）に予定。

（2）今年度の調査捕獲について

個体数調整の効果、個体群への影響、捕獲技術を確立するための学術研究捕獲

捕獲方法：網による捕獲と銃による捕獲

捕獲上限数：アザラシの個体群の維持に影響を与えることなく、かつ必要なデータが最低限取れることを考慮し、40頭とする。

実施時期：準備ができ次第、天候等も考慮して行う。目安として、網による捕獲は6月中旬に1回実施を目指し、銃による捕獲は、8月頃までに実施予定。

（3）モニタリングについて

保護管理を実施するうえで、また対策の効果検証として、モニタリングを行い、知見の集積や計画の見直しを行うことが不可欠。

モニタリング項目：5月のワークショップで専門家から挙げられた項目は、生物学的モニタリング（生息数、混獲数、捕獲個体の性比や年齢、遺伝的多様性等）と社会学的モニタリング（被害量、漁獲量、被害率、魚価、被害範囲等）。

（4）その他

専門家から以下の意見があり、今後検討していくこととなった。

サケの回帰率の低下など、根本的な漁業資源に関する問題もあり、アザラシの被害問題のみを単独で検討しても、漁業とアザラシの共存問題は解決しない。

そのため、今後は、町役場が調整役となって、漁業全般やエコツーリズムなども含めて地域のあり方について議論する場（協議会のようなもの）を設け、その中の一部として、被害対策を議論するべきである。

社会的、科学的な関心の高いテーマなので、シンポジウムを開催し、オープンな場で議論する機会を設けたほうがよい（来年度の開催を検討することとする。）。